

令和4年度 学校評価書

四万十市立八束小学校  
 学校長（ 太宰 三和 ）印

1. 学校教育目標

元気で優しくたくましく しっかり学ぶ児童の育成

2. 本校の現状

○素直で何事にも一生懸命に取り組める児童が多いが、くじけやすく素直に自分を表現できにくい児童、自己表現の苦手な児童もいる。朝会活動や縦割り班活動により、学年をこえてなかよく遊ぶ姿が見られる。  
 ○地域や家庭は学校の教育活動に理解があり、地域ぐるみで見守る体制ができている。今年度は八束小地域学校協働本部事業の取組を広げ、学びの充実や地域・保護者との連携をさらに高めていく。  
 ○昨年度の全国学力・学習状況調査では、算数・国語ともに全国平均を上回り、高知県学力定着状況調査でも5年の理解以外は全国平均を上回っていた。今年度も、昨年度の取組を継続し、学習規律の徹底と授業改善をめざして課題分析・共有・実践に努めていく。

3. 本年度の評価項目

**〔1〕学力向上**  
 ①学力向上のための組織的な校内研修等の取組  
 ②子どもにわかる授業づくり  
 ③予習・復習の質と量を高める取組

**〔2〕生徒指導**  
 ①いじめの防止等のための取組  
 ②不登校への総合的な対応のための取組  
 ③基本的生活習慣の確立

**〔3〕学校・家庭・地域の連携・協働**  
 ①保幼小、小中の円滑な接続の推進  
 ②みんなであいさつ運動  
 ③地域との連携・協働

**〔4〕働き方改革（業務改善）**  
 ①子どもと向き合う時間の確保  
 ②勤務時間を意識した働き方の推進

4. 自己評価

評価項目		評価指標	取組状況・成果	評定	次年度の方策
大	中				
〔1〕	学力向上				
	①学力向上のための組織的な研修等の取組	○学校評価「授業がわかる」児童・保護者肯定的評価90%以上 ○学習規律目標達成率90%以上 ○チャレンジタイム毎日・朝学習週2回実施 ○加力学習週2回実施	○学校評価「授業がわかる」児童・保護者100%。昨年度より児童の評価が上がっていた。 ○学習規律の定着率は、ベル着・聞き方100%、正しい姿勢92%。 ○チャレンジタイムは、算数の習熟を週3回実施した。朝学習は火によもつかの記事作成、木に漢字習熟、金にひらがな・カタカナ50音の書き取り1分以内とことばのきまりの習熟を行った。 ○加力学習は、外部支援を得ながら各学年が週2回以上実施した。	3.6	○今後も全体で情報共有、わかる授業づくりを進め、授業改善を行っていく。 ○相手を意識した聞き方ができるよう、モデルを提示するなどの指導を徹底する。学習規律アンケートを年3回以上実施し進捗を検証する。 ○放課後の加力を計画的に行い、外部講師を積極的に活用する。
	②子どもにわかる授業づくり	○授業スタンダード・ICT活用90%以上実施 ○授業力チェックシート平均値2.5以上 ○学習のふりかえり「ゴールの達成」「考えを伝える」90%以上	○授業スタンダードに基づいた授業100%。ICT活用の授業も全学年で行い、活用方法を校内研で共有することができた。 ○西部教育事務所の指導主事を3回、外部講師を8回招聘。 ○授業力チェックシート平均値2.86。 ○学習のふりかえり「ゴールの達成」「考えを伝える」100%。	3.6	○来年度も算数科で授業スタンダードに基づいた授業の実践を継続する。 ○今年度同様に、算数科では、その時間のゴールイメージを持たせたり、とも学びの焦点化を行ったりする授業づくりを統一して行う。
③予習・復習の質と量を高める取組	○予習・家庭学習確認学期に2回以上 ○学校評価「家庭学習達成」児童90%以上 ○自主学習大賞表彰・ノート展示年間10回以上	○予習・家庭学習確認3回（学期毎）実施。 ○「家庭学習」の達成率100%。 ○自主学習大賞児童の表彰、ノート展示12回実施。今年度は長期休業中の自主学習大賞を行い、受賞回数を増やした。	3.6	○効果的な予習・復習を仕組みやすい時間を洗い出し、授業と家庭学習のサイクル化をさらに深める。 ○児童や保護者への家庭学習の推奨を継続する。 ○表彰やノート展示を計画的に行い、自主学習を推奨していく。	

〔2〕生徒指導	①いじめの防止等のための取組	○Q U 2回実施・要支援群0%、「協力してくれる」「励ましてくれる」児童90%以上 ○学校生活アンケート3回実施・いじめ未解決0	○Q-Uの要支援群は2回とも0%、「友だちから認められている」91%、「協力してくれる」「励ましてくれる」97%と目標達成。 ○学校生活アンケートを6・11・2月に3回実施し、いじめ未解決は0件である。特に3回目では児童の気になる言動が大きく減った。	4.0	○児童に全教職員で関わり、児童の実態把握を共有しながら要支援群0%を目指す。「協力・励まし」「友だちから認められる」は目標達成できたので、今後も学校行事や全校レクを通して一人一人が活躍できる場を設定し、90%以上を目指す。 ○児童の観察や対話を大切にすることを第一に、アンケートを3回実施し、いじめや問題行動への対応を組織的に行っていく。
	②不登校への総合的対応のための取組	○学校評価「学校が楽しい」「悩みを聞いてくれる」児童90%以上 ○校内支援会の実施年間10回以上 ○全員面談の実施学期に1回以上(SCまたは担任) ○児童の情報共有毎月1回	○学校評価「学校が楽しい」児童100%、「悩みを相談できる」児童92%で目標を達成。また学校生活アンケート回答「学校が楽しい」100%、「話を聞いてくれる」100%であった。 ○新規不登校者数はないが、年度途中から転入してきた不登校傾向の児童の欠席数が2学期途中から大きく増えた。校内支援員会(11回実施)やSSW、SCとの協議も設けてきたが、改善につながらなかった。保護者とは連絡を取り合い、児童の状況は把握できているものの、児童・保護者ともに登校することへの意欲が低く、今後出席日数が増えることは難しいと考えられる。	3.7	○学校評価「学校が楽しい」「悩みを聞いてくれる」児童90%以上を目指す。 ○校内支援会の実施年間10回以上行う。 ○SCとの全員面談の実施。学期に1回以上担任との面談を設定する。 ○児童の情報共有毎月1回実施する。
	③基本的な生活習慣の確立	○「早寝・早起き」各85%以上「テレビ/ゲーム2h以上」15%以下 ○歯磨き1日3回85%以上 ○保健便り毎月1回	○生活点検7回げんきっこチャレンジ5回げんきっこ宣言3回実施。早寝84.4%早起き77.3%テレビ/ゲーム2h以上14.1%の結果。お便りでの啓発、掲示物等の工夫により昨年度と比べて大きく改善が見られた。 ○歯みがき1日3回87.6%。歯垢染め出しやフッ素洗口などで歯みがきに対する意識付けを年間通してできた。 ○保健便りは毎月1回発行し、保健行事の前にはその都度発行した。	3.1	○生活点検年7回実施・分析・共有を継続し、啓発方法の工夫を重ねる。 ○未受診の家庭へは毎学期末に治療勧告書を再配布する。日常的な声かけを続けていく。 ○保健だよりを毎月1回配布を継続する。
〔3〕学校・家庭・地域の連携・協働	①保幼小、小中の円滑な接続の推進	○幼児との交流年間3回 ○保小の職員連携学習会年間2回 ○小中連絡会、合同校内研修年間3回	○交流が1回しかできなかったが、1年学級通信を保育所に全号送付し、情報を発信した。 ○保小の連絡会を5/17、11/29、2/13の計3回実施。「10の姿」を共有し、進捗状況を確認することができた。 ○小中交流研修会3回実施。中学校の公開授業1回、小学校1・6年の公開授業を各1回ずつ行い、意見交換ができた。知・徳・体の部会に分かれ、情報交換をした。	3.6	○保小で見直した「10の姿」の進捗状況を確認を継続する。 ○保育所への通信の送付は今後も継続する。 ○小中交流研修会で、各部会が来年度に向けて確認したことを重点的に実施、情報交換をし、連携を深めている。
	②みんなであいさつ運動	○毎月2回5・6年生が国道沿いであいさつ運動実施(10日・20日) ○学校評価「挨拶ができる」児童90%以上	○あいさつ運動は天候により実施できないこともあったが、それ以外は計画通り進められた。 ○学校評価「挨拶ができる」の肯定的評価(児童)は100%。但し、保護者の回答は89%で昨年度を下回った。	3.6	○校舎移転に伴い、挨拶運動の場所も変わるため、より地域へ発信できる場所を選び、挨拶運動を継続する。 ○登下校中の挨拶が弱いと考えられるので、誰に対しても自分から挨拶することを価値づけ、指導支援を継続する。
	③地域との連携・協働	○学校評価「児童や保護者・地域の意見を聞き学校運営に反映」保護者・地域85%以上 ○地域学校協働本部による学校支援活動年間100時間	○学校評価「児童や保護者・地域の意見を聞き、学校運営に反映」の肯定的評価は保護者94%、地域100%で目標は達成したが、保護者の割合が昨年度より3%下がった。 ○地域ボランティアの参加は延べ300人以上で、目標の年間100時間も大きく上回ることができた。	3.7	○アンケート等調査物の結果を保護者や地域に返し、進捗状況等を伝えるようにする。 ○地域コーディネーターとの連絡月1回を継続し、多くの地域ボランティアの力を借りられるよう工夫する。
〔4〕働き方改革(業務改善)	①子どもと向き合う時間の確保	○資料データ化の推奨 ○優先順位による業務の効率化 ○打ち合わせ20分以内	○学校評価「悩みや困ったことの教師への相談」の肯定的回答(児童)92%。 ○校内研や職員会の議題や資料をデータ化したり、研究記録や教育計画を含めた提出文書等のデータ保存を徹底した。 ○長期的な業務計画が立てやすいように、職員会では2ヵ月先の計画を提案した。 ○学年間や部会の打ち合わせは時間を意識して進めることができたが、検討事項や報告内容によって20分以上かかる場合もあった。	2.8	○グループウェアを活用し、詳細な日程を各自が書き込み共有できるようにする。 ○校内締切日を設定する際、学校や学年の行事等を考慮し、効率化を図る。 ○優先順位に加え担当も明らかにし、フォロー体制を構築し易くする。 ○打ち合わせの場に置き時計を設置するなど意識化を推進する。
	②勤務時間を意識した働き方の推進	○勤怠管理による勤務時間退校時刻把握 ○最終退校時刻を守る85%以上達成 ○時間設定に即した提案協議	○毎月勤退時間を把握し、一覧化することができた。 ○最終退校時刻約96%だが、時間外勤務が月45時間以上約43%で業務改善に課題が残った。 ○校内研や職員会の時間設定は100%であり、概ね終了予定時刻までに終わることができた。	2.5	○勤退時間の一覧表の配布や管理職からの声かけを継続する。 ○毎月の時間外勤務が多い教職員には管理職が面談し、その身体的・精神的負担の状況を把握していく。

4段階評価(4 目標を十分に達成、3 ほぼ目標を達成、2 やや不十分、1 改善を要する)

## 5. 学校関係者評価

学校内の職員の努力で成果が出ていると思います。学校は様々な工夫されているにも関わらず、保護者の協力がないと難しいこと(基本的な生活習慣)は達成できていないという現実があるようですね。そんな中、地域との連携・協働については目標を達成しており、地域の人は学校に関心を持っているのだと思います。働き方改革は、物理的な充実(人)がないと難しいと思います。